

三宅島の現状（その8）

平成13年6月11日

現地災害対策本部（神津島）

【島の現状】

5月25日から30日までの6日間は、比較的安定した天候に恵まれ、作業は順調に進みました。低気圧の通過に伴い31日、6月1日は三宅島への渡島はできませんでしたが、梅雨に入ってから梅雨前線は南下したまま、それほど活発な動きをしていないことから、予想より渡島の機会に恵まれ、復旧作業も進んでいます。しかし、6日には総雨量70ミリを越える大きな雨が降り、各所で泥流が発生し、川田沢の石積護岸が壊れたり、三宮林道などで道路が崩壊するなど新たな被害が発生しましたが、幸いにも家屋への泥流被害発生や被害の拡大は免れました。7日から今回の雨による被害に対する応急復旧を進めています。

三宅支庁の第二庁舎における夜間滞在の試行も順調に行っています。現在、滞在人数の拡大を目指して、役場、勤労福祉会館など脱硫施設の整備を進めています。

【火山活動】

火山活動に若干の変化がみられました。4月に入ってから何度か振幅の大きな火山性微動が発生し、5月一杯観測されましたが、5月27日早朝6時04分頃及び6月3日早朝と6月10日夜には小規模の噴火と降灰が確認されました。また、5月28日には火山噴火予知連絡会が開催され、三宅島について統一見解が発表されました。火山ガスは28日の観測で日量2万7千トン記録しており、現在でも日量2万～3万トンの火山ガスが発生しているなど依然として大量発生が続いています。

【復旧作業】

はまゆう丸とえびね丸で、45班の作業に分かれて、300名程度の人員が渡島し、復旧作業に従事しており、時には夏のような炎天下の中、真っ黒になりながら頑張っています。

道路の復旧は、立根に引き続き、芦穴及び仏沢の仮橋が完成しました。現在、三七沢、空栗橋の仮橋設置に向けた準備工事を進めています。

水道の復旧は、大路水源から西回りで復旧を進めており、9日現在、阿古配水池までの間が通水可能となりました。今週中には阿古から神着間での工事を終え、通水する予定です。

砂防工事は、梅雨に備えての土のう積み工事が概ね完了し、三七沢や川田沢などでは砂防ダムの工事に着手しています。現在は、工事用道路の建設や既設ダムの土取りを進めています。

NTTグループは、泥流監視装置用の通信回線の準備、ライフライン維持のため、泥流被害を受けやすい区間の整備及び携帯電話のサービス復旧に向けた準備を行っていきます。

東京電力では、送電に関わる維持作業やケーブルの移設工事などを進めています。

【泥流被害調査の実施】

村では、梅雨入りを迎える前に東京都及び関係機関の協力で家屋等の被害調査を実施しています。

- 1 調査目的 家屋等の被害状況を調査し、被害概要を島外に避難している三宅島住民に報告を行う。
- 2 調査期間 平成13年5月28日～6月5日
(第一期)

第一期で90%調査完了していますが、残り約200件については第二期として11日から調査を再開します。

【治山緑化事業の実施】

東京都では、三宅島噴火による土砂流出を早期緑化により防止することを目的にヘリコプターによる種子の空中散布を6月1日から実施しています。散布面積は、約35ヘクタール、使用種子はトールフェスク、バミューダグラスなど5種類の牧草です。阿古の仮設ヘリポートを基地に、散布用の種子を作ってはヘリに積んで散布するという一作業7～8分のサイクルと目の回るような忙しさを進めています。

【就労案内】

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村村民課相談係(代表03-5321-1111 内線45-640)にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさま」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

お問い合わせ先 三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854
--

テレビ電話申込み、忘れていませんか

テレビ電話の申込みを忘れた方、迷っていらっしゃる方、テレビ電話の申込みを是非なさってください。テレビ電話の申込みができる方は次の皆さんです。

申込みできる方

1. 平成14年3月31日までに満65歳になられる方。
2. 1世帯に65歳以上の方が2名以上いても1世帯に1台になります。
3. 今回の世帯とは避難後の住宅における世帯となります。
(住民票では別々の世帯でも避難後1カ所にお住まいの場合1世帯となります。)
4. 三宅村に住民票を有していること。

設置にかかる費用

1. テレビ電話、工事代金、保守料(1年間)は無料です。
2. テレビ電話を設置するためにISDN回線工事が必要です。すでにISDN回線を引かれている方は工事をしません。この工事代は無料です。
3. ISDN回線を引くと基本料金が上がります。上がった分は三宅村が1年間負担します。1年後は各自の負担になります。
三宅村では下表の①②の回線加入者の増加分を負担します。

基本料金表

現在加入の回線料	現在の回線料	ISDN回線の増加料金
①ダイヤル回線	1,750円	1,080円
②プッシュ回線	2,140円	690円
③ISDN回線	2,830円	変更なし

4. 通話料金は各自の負担になります。通話料金はテレビ電話を設置しても今までどおりの通話料金と変わりません。

申込み期限

平成13年6月25日

申し込みを希望される方は5月に送付された申込み用紙をお送りください。

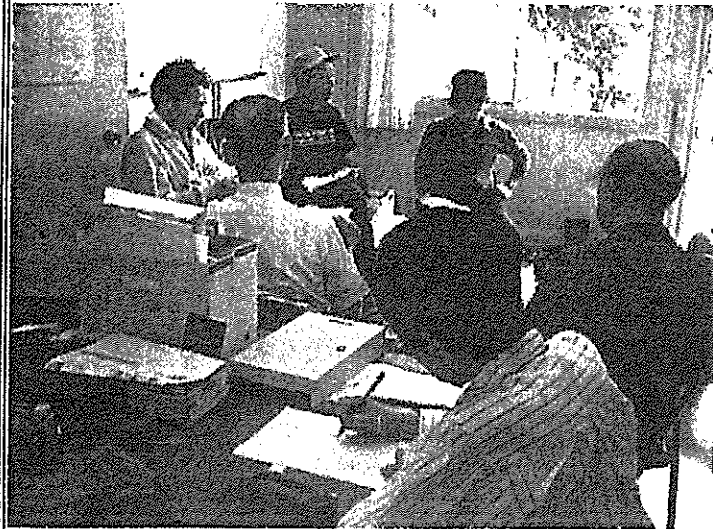
問い合わせ先

三宅村保健福祉課福祉係

TEL03-5320-7827

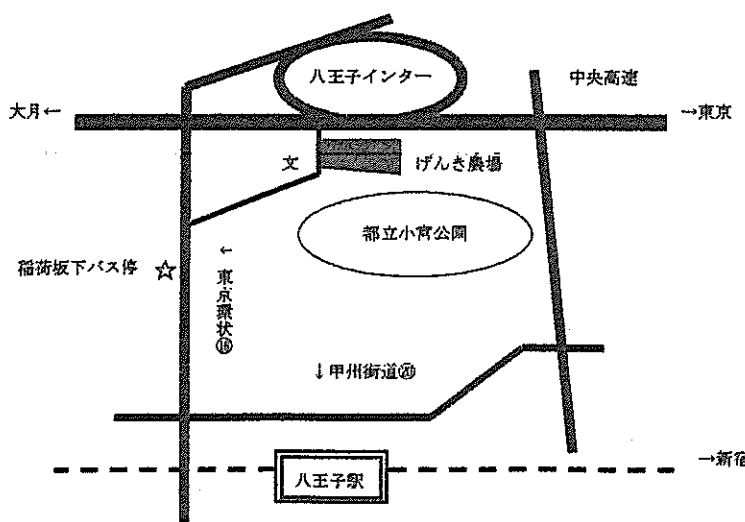
～三宅島「げんき農場」のひとこま～

6月×日 朝の打合せから



げんき農場の朝は6名の班長と正・副農場長、事務局員の打合せから始まる。昨日までの作業の申し送りを行ない、今日の作業人数を確認する。ここで一日の作業計画が詰められる。「アシタバ畑の雑草が目立ってきた、早めの除草が必要だ。」「サツマイモの苗が思ったより早く到着した。箱を開封して蒸れないようにしよう、その間に8号と14号の畑の準備をしよう。」畑は約1.3ヘクタール。14の区画に仕切られ、サトイモ、アシタバ、サツマイモ、一般野菜、カジュアルフラワー（宿根性の切花類）等が植えつけられる。「明日は技術

支援チームの先生により、枝豆の作付指導があります。畑の状況と資材の確認をしておきましょう。」技術支援チームは、都の専門技術員と中央農業改良普及センター等の職員から構成される技術面のアドバイザー達だ。島民とともに噴火を経験してきた三宅支所のメンバーも含まれている。「アシタバの除草に2・3班、サツマイモの準備に1・4・5班、枝豆の準備に6班ということをお願いします。なお、周辺の除草には、各班長さんに草刈機であたってもらいます。機械を扱いますので、くれぐれも怪我の無いようにお願いします。」こうして、今日一日のげんき農場が始動する。



○げんき農場周辺案内びアクセス

【電車・バスでのご来場】

JR八王子駅「北口」⑫番バス乗り場

(純心学園行きをのぞく)

「稲荷坂下」下車徒歩10分

ひよどり山中学付近

【車でのご来場】

中央自動車道八王子インター南下車

東京環状16号線を南下

ひよどり山中学校付近

☆「げんき農場」で働いている島の人達と交流して見ませんか？

農場見学を歓迎いたします。(土・日・祝祭日を除く、10:00～17:00までの開園時間内)

☆「げんき農場」で働いている人達のコメントを「場員の声」として、連載して紹介していきます。

創刊号

三宅島「げんき農場」だより

平成13年6月15日発行

発行元 三宅島げんき農場

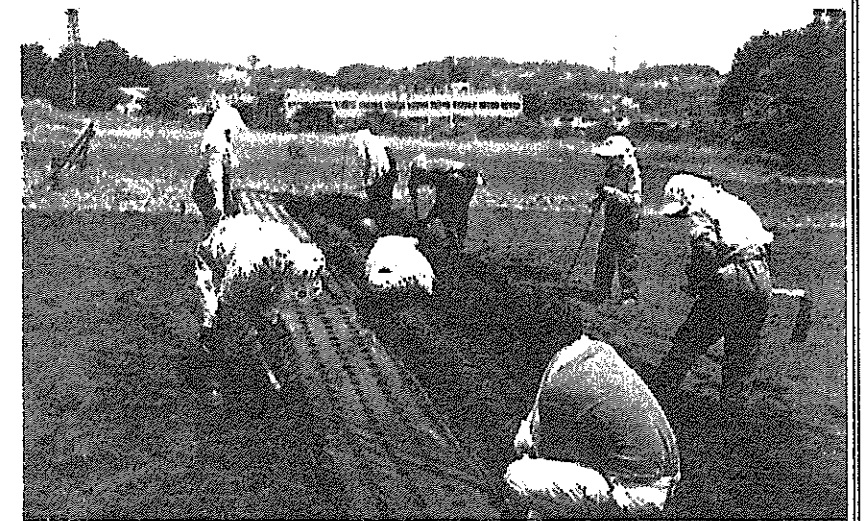
八王子市宇津木町236-1 外

TEL・F 0426-27-4355

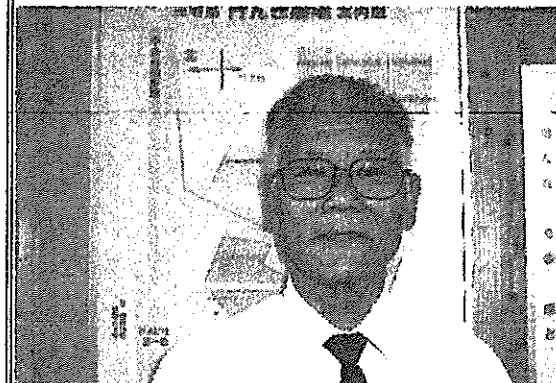
○三宅島「げんき農場」開園

平成13年5月10日(木)

八王子市宇津木町に三宅島「げんき農場」が開園いたしました。本農場は、三宅島から避難している島民が、島の特産物を栽培・確保し、帰島後速やかに営農再開できるよう支援するとともに、島民の栽培技術や営農意欲の維持、雇用機会の確保、情報交換の場を提供することを目的として、国の緊急地域雇用特別基金事業により東京都が事業主体で東京都農林水産振興財団と東京島しょ農業協同組合が運営主体となって、各方面からの協力により開園になったものです。農場は都立小宮公園や市立ひよどり山中学校に隣接した高台にあり、総面積30,049㎡の敷地内には14区画に仕切られた約13,000㎡のほ場と事務所やミーティングルームを兼ねた管理棟、シャワー室、トイレも完備されています。開園期間は4月から9月までの第1期、10月から来年3月までを第2期に分けて雇用の場を確保していくものです。第1期目の現在は、土・日・祝日を除いた午前9時から午後5時までを64名の三宅島民が就労しておりまして、第2期分の雇用者は、改めて募集することとしています。



○「げんき農場」が動き始めました。



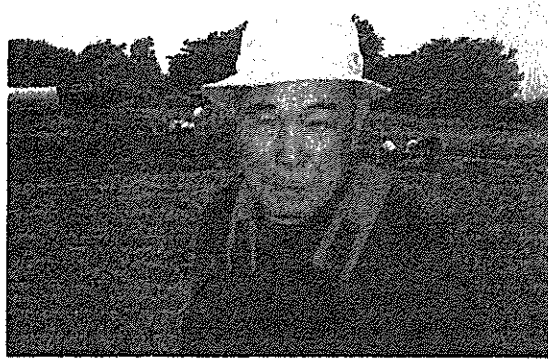
八王子市上柚木在住 農場長 奥山彦一(坪田) 三宅島「げんき農場」も5月10日開園以来、1ヶ月余りが経過しました。その間64人の場員が6人の班長のもとで一致団結して荒地を耕し、特産の赤芽イモ・アシタバ・サツマイモなどの植付作業に取り組みました。農場のモットーとして“げんきで楽しく” “お互い助け合って” “感謝の心を忘れずに” を掲げております。場員の皆さんには年齢の制限や、男女の区別もなくみんな一緒です。大きな樹の下で朝礼、ラジオ体操、そして作業に入りますが、和気藹藹の毎日をご過ごしています。この農場は都立小宮公園に隣接していて、自然がいっぱいの丘にあります。先日のこと農場内の草むらで「かる鴨」の親鳥がヒナをかえしてるのを見つけました。草を刈らずにそっとしておいたのですが、いつの間にか姿が見えなくなっていました。当農場では、場員の忌憚のない声を聞くため「みんなの声」という投書箱を設ける計画でいます。建設的な意見をいただき多くの仲間達の就労と交流の場として、島の皆さんから喜ばれるようにしたいと思います。皆さん“元気で頑張りましょう”。最後になりましたが、当農場の開園に当って御尽力下さいました関係機関の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、今後共一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

～ 場 員 の 声 ～

「楽しい畑仕事」

荒井 要 (八王子市南大沢在住：伊ヶ谷)

避難から7ヶ月、何も仕事もなく暗い毎日だったが、「元気農場」からの採用通知を受けたときは本当にうれしかった。説明会に行き宇津木山に登りまた、農場の設備の良さには驚いた。久しぶりの畑の仕事もうれしかった。農場の仕事も大変だったが、サトイモ畑又明日葉と出来てくる畑を見ると楽しみだ。つかれもわずれるね。また、毎朝「皆の元気な顔」を見ると一日働く力が出るので、三宅島に帰れる日まで元気に働きたいと思う。



「島に帰る日を楽しみに」

笹本 薫子 (八王子市上柚木在住：伊ヶ谷)

初めて「げんき農場」に来た時は集落が違っているので半分の人の顔しか知らなかったのに、最近は大勢の人と顔見知りになり仕事も大分なれて、もとの元気を取り戻してきました。「ストレス」がたまっているためか「布団に入ってもねつきがわるかったのに、今ではよくねむれる様になって来た。」と皆と話あいましたが、私も良くねむれるし、体の調子も良くなりました。仕事を始めた頃は体が痛かったのに、今ではなれて大変良くなりました。家の中でウジウジしていたのに、げんき農場に来るようになってからは「今日はどんな仕事をするのかな？」と楽しみに来ています。島の人だけで働ける事が一番良い事です。でも心配な事があります。それは9月になると、この農場をやめさせられるのではと云う事ですが、私は島では民宿をしながら畑で野菜を作っていたので農業が大好きです。東京に避難してから8ヵ月目にやっと仕事についた場所なので、是非永く働きたいです。そして一日も早く島に帰る日を楽しみに毎日働いています。



「三宅島げんき農場日誌」

鈴木 喜一郎 (八王子市上柚木在住：坪田)

都・八王子市・三宅島の支援により、三宅島の避難民に対し皆んなで楽しい農園が開設され、高齢者の働く場所が出来て良かった。避難生活が長引いてストレス発散のため、年を忘れて島で作っていたアシタバ・赤メ里芋等を試み作り、豊作を願って「大農は草を見ずして取る 中農は草を見て取る 下農は草を見ても取らず」と学んだ記憶がある。よくも雑草が生える、この雑草に負けず一日でも早く帰島出来ることを念じながら頑張っています。



「イエーおじ！」

宮原 和代 (武蔵村山市在住：阿古)

私は、6月1日からげんき農場に来ています。島にいる時には農協の阿古支店にパートで勤めていました。5班のみんなは主に阿古地区の人達なので、顔なじみが多く本当に良かったと思っています。友達と4月初旬頃「一緒にげんき農場に仕事に行こうよ。」と誘って応募しましたが、その時には私が抽選にもれてしまいがっかりしました。しかし今回通知があつて喜んでます。先日、里芋畑にマルチを敷く作業がありました。中腰の作業なので足がいたく、この様な時には

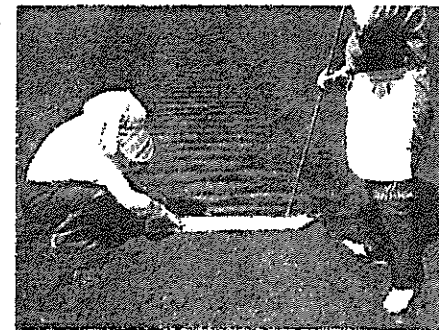
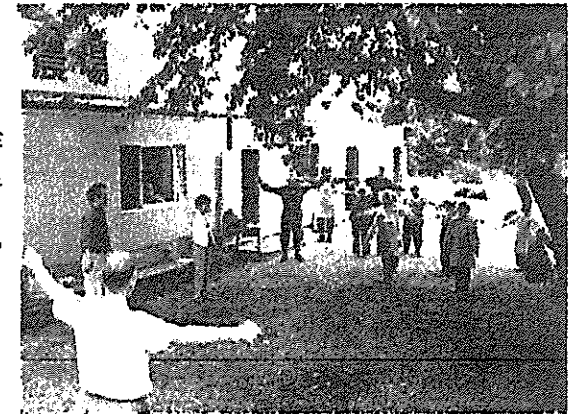
私がちょっぴり若い為か、おじをよく知っているからか、おじに「宮原・宮原」と呼ばれますが、「イエーおじにバカにされながら仕事するだじょー」など冗談を言いながら楽しく通っています。三宅にいつ帰れるかわからないけれど、とにかく頑張っていきたいと思っています。

～三宅島「げんき農場」の近況～



朝は班長会を開き、昨日までの作業の申し送りと、きょうの作業の打ち合わせを行う。引き続き、朝礼の実施。

左：朝の班長会議
右：朝礼時の体操



今までに作付けられたのは、サトイモ、アシタバ、一般野菜等である。今後、サツマイモ、花等の作付けに入る予定。 写真左・中：アシタバの播種風景 写真右：発芽したアシタバ